

42 破天荒

令和 元年度版
創刊
第十八号

平成から令和へ
令和第一号を送ります

四十二回生の二学年がスタートして一か月。ゴールデンウィークを挟んで、五月一日に改元されました。

『令和』

生徒の皆さんには新しく、保護者の皆さんには懐かしい響きがあるのではないのでしょうか。改めて、温故知新を大切にして、不易流行に拘るような時代になっていくような気がします。

一方で、生徒の皆さんが体験してきた『平成』の時代は、ある意味、平和過ぎた時代とも言えます。いよいよ始まる令和の時代、四十二回生にとっても、大きな節目の一年になります。すでに、相生高校での中枢学年として、生徒会長・副会長も信任され、新生徒会が組織されました。五月八日には、四十二回生生徒会認証式が行われましたが、それに先立ち四月二十六日にはすでに、三年生の前生徒会とともに、相生駅での挨拶運動にも参加しました。

四十二回生と令和の関係が深いものとなる可能性は大きいです。後で、高校時代を振り返ったとき、懐かしく思い出されるだけでなく、たくさん人の心に残る経験・成果を積み重ねてもらいたいと思います。

挨拶運動の様子 4月26日



生徒会 4 月 目標

『夢見ることができれば
それは実現できる』

4 2 回生中心の夢の始まりです。

自分の活動の成果を
月に一回は見直し

残す習慣を

インスパイア事業
自然科学コース特別講義
四月二十六日(金)

高大入試改革の旗頭の下、特に、ポートフォリオ入力については、結構振り返られた一年でした。ただ、生徒の皆さんだけでなく、私達もまた学ぶことも多かったのです。それが無駄にならないように、次の一年、さらに育てていかなければなりません。

とはいえ、成果を探し、成果を記録に残すことばかりでは、各自の進路実現はそう簡単には叶いません。確かな学力を身につけるとともに、各自が得た成果を生かせる、そんな成長を積み重ねてもらいたいものです。

保護者の皆さんの協力もまた必要不可欠です。昨年一年の活動の記録の中で、例えば、左のワークシートのように、行事に対する単なる感想文を求めるのではなく、その行事について、何をキーワードにして、何を目標にするのかを明確化させ、そして、何を得て、何を課題にして、次の何につなげていくのかを考えさせてきました。「わがまち相生探究活動」にしろ、学習以外の負担をお感じになられて、やきもきされたり不安になられたこともあるでしょうが、生徒たちの多くは、自分の言葉で、自分の考えを力強く活字にすることができるようになってきました。

うわべの部分だけでなく、自己の夢をどう実現させたいかにつながる基礎は、昨年一年間の相高生活の中で培われつつあります。その力を、学習面においても、目標の明確化、反復練習、あきらめない心の育成にお力を貸してください。教師の目に見える生徒の活動は、氷山の一角です。家庭での時間をいかに有益に過ごすか、どうぞ、ご協力をお願いします。

本年度の課題は、まず、それをどう『音』にするかです。つまり、人にどう伝えるか、人にどう伝わるかの表現力を養成することです。昨年のように、全員への宿題とはなることは減りますが、様々な場面で、多くの人の前で表現機会を、数多く与えていきたいと思います。

機会は与えられるものではなく、その機会を生かすように飛び込むものです。
二年生になり、中心学年となる今、大きなエネルギーが必要な第一歩を踏み出す勇氣を持ち、二学年を歩もう。
平成から令和となった
この機会に

野外活動(ペーロン競漕) 目標及び振り返りシート

ペーロン競漕について 2年 組 番 名 前

1. 練習で艇を漕いだときの感想を一言で表そう。

2. 本書に備えて、艇の仲間と

どんな目標設定をして	
どんな作戦を立て	
どんな方法でそれを 実践しましたか	

3. 本書を終えて

どんな成果を得て	
どんな課題を感じて	
次の行事でどう 自分の役割を果たし	
クラスでどんな成果を 求めていきますか	

4. 上の箇条書きを利用して、ペーロン競漕について、90字以上100字以内にとりまとめなさい。



十連休の前日、自然科学コース特別講義がありました。この講義は、自然科学コースが一年で取り組む、自然科学探究をより良くするための、研究の条件発表の方法・ポスターの効果的な作成・効果的な声・表現などを、本校OBでもある、岡山大学環境理工学部教授の前田守弘先生から学びました。

今回の講義だけでなく、一年間の経験も含めて、自然科学コースの発表を通じて、四十二回生全体の表現力を育てて、引継ぎたいと思います。

いざ 中間考査 & 県総体へ

新天皇の即位も相まって、十連休に渡った令和元年のゴールデンウィークでしたが、皆さんはどんなゴールデンウィークとなりましたか。私は、正直言って疲れました。何をしたわけでもない。ただ、日々の生活・仕事というリズムのない中で、先の仕事の準備をする、あるいは、反対に何も考えずに、『無』であることを過ごすことが苦痛以外の何物でもありませんでした。

当たり前の日々の生活

を過ごせることを、改めて感じる事ができた十日間であったかもしれません。

とはいえ、多くのクラブが、ゴールデンウィーク中に西播大会であったり、県総体がスタートしました。何も分からず、とりあえず応援した一年生と違い、いろんなことを感じながら応援したり、あるいは、ゲームに参加した今年の総体はどうだったでしょう。自らの内面の成長に加えて、目に見える結果が出たのであれば、今年数回目の成果の記録に記入したいですね。時代は進んでいます。いつまでも去年の結果や余韻に浸っている場合ではない。よりタイムリーに、自分の活動の振り返りを行ってほしい。

ある部員が言いました。「部活動の調子がいいのか、部活動だけでなく、学習においても成果が出てきていると思えます。春休みに、苦手な教科を、その教科が得意な他の部員に徹底的に質問をして、教えてもらっていたら、びっくりするような結果が出て、気が付けば、部活動でも自信を持って、練習もレースもリズムを持って出来ています。」

片方だけ頑張るといって、ある意味器用な生き方(苦手なものを持ち捨てる)ができる相高生は、なかなかいません。だから、部活動もしつかりと打ち込み、苦しくなっても逃げないで。苦しいのは、必死だから。答えは、やり切ったときに出る。そのために、生活に張りのある

リズム

を大切に、自分に与えられた時間を支配しよう。良くも悪くも、リズムは大切なものです。もし、この十連休で自分のリズムを見失ってしまった人は、この週末が勝負です。一学期中間考査は、いろんな定義付けができる。時代が変わり、新鮮な気持ちで二年生のスタートを切ることができるか、ただ何となく、無意識に直前にお茶を濁して、それっぽい数値を残すか？

力はいっ発揮するの？ 自分が勝負したいときです
努力はいっ積み重ねるの？ 今です
よね！

昨年度十二月の三者面談

皆がみな、自分の思い通りの結果を告げられたわけではなかったね。あれから、まだ五月。

あのときに悔しさを感じた人へ

この一年の努力が、自分に再度チャンスを与えてくれる。二年生になつて一月余りで、その言葉を忘れてしまった日々の生活になつていないですよ。チャンスを生かすも殺すも、自分自身の心が前提です。悔しさは絶望ではない。活力へのエネルギーです。新しい勝負が始まります。

あのときに喜びを感じた人へ

忙しい毎日にはなつてはいるだろうけれども、今の生活に安堵していませんか。選抜クラスに入れることが一番の目的ではなく、選抜クラスで鍛えられて、自分の進路をより良く突き進むために、実力を養成することが一番の目的ですよ。チャンスは永久に与えられるわけではない。この一年、チャンスを手放さないよう、しっかりと自分と向き合ひましょう。

いずれにしても

次の中間考査は、なりたい自分に対する本気度が見えます。熱い想いで迎えた二〇一九年。相高での成果を見る考査に対して、自分の信念が克つか、妥協が克つか。

君のなりたい自分はどんな自分ですか



今後の予定

- 五月二十一日(火)～二十四日(金) 中間考査
- 二十四日(金) 通学路清掃
- 三十一日(金) 挨拶運動(生徒会) 参加してみようと思う人いませんか？
- 六月 相高祭準備も本格化します。時間を有効に。
- 三日(月)～ 公開授業ウィーク
- 八日(土) 土曜講座(午後相高祭準備の可能性)
- 十五日(土) 土曜講座(午後相高祭準備の可能性) 土曜講座を積極的に取ろう。
- それが、クラス活動につながる。
- 二十一日(金)～二十二日(土) 相高祭
- 二十四日(月) 代休
- 七月 三日(水)～九日(火) 期末考査
- 九日(火) 職業ガイダンス
- 十日(水) 球技大会(予定) 十二日(金) 予備日
- 十三日(土) ベネッセ記述模試
- 十五日(月) 海の日
- 十七日(水) G T E C
- 十九日(金) 一学期終業式
- 二十二日(月)～二十九日(月) 夏休み前期補習(必修)

実は、これらの情報はすべて、システム手帳に掲載されています。勿論、変更については連絡を要しますが、大まかな一年の予定は、生徒の皆さんの側にあるのです。しっかりと確認をして、保護者とも情報共有をしておいて下さい。

ライティングに挑戦

I won't become such a person that don't translate an idea into action .

Now , the importance of English is booming .

So, I decide to write some English sentences on the manuscript of "破天荒" !

I have a challenge that I am not afraid of failing .

Everybody , 42nd 's students ,

Let's try writing English !

遠慮なく訂正・修正・育成をして下さい。